

■額田王 歌人。天智天皇時代の万葉歌人を代表し、古今女流で独自の地位。

ぬかだのおおきみ

百済王子人質 631= この頃、鏡王の娘に生まれる。

近江の鏡の里に住み、同国の沙額田で育ったかとする説がある。別に大和の額田部を出身地とする説もある。「薬師寺縁起」には“三采女”の1人として額田をあげる。姉とされた鏡王女も額田王その人として見た方が作品内容等から妥当とも考えられる。

高向ら帰国・ 640= 9歳 :

乙巳の変・・ 645=14歳 :

・・・・・・ 648=17歳 : この頃、*皇極上皇の比良宮行幸に同行して歌を作る。また、大海人皇子と結ばれて、十市皇女を生む。
・・・・・・ 649=18歳 :

有間皇子謀殺 658=27歳 : 齐明天皇が紀の温湯に行幸するのに、中大兄皇子とともに従って歌を作り、
第4回遣唐使 659=28歳 : 齐明天皇が吉野に続いて、近江の平浦に行く。この時に作ったらしい歌がある。

朝鮮出兵・・ 661=31歳 : *齐明天皇一行が百済救援軍を率いて伊予の港(熟田津)を出航するに際して、有名な1首の歌をよんだ。直後に天皇が死去し、帰京する中大兄皇子に同行したと見られる。

第5回遣唐使 665=34歳 : この頃、娘の十市皇女が大友皇子と結ばれ、葛野王を生む。

大津京遷都・ 667=36歳 : 近江遷都に際し、三輪山の歌を作り、天智と相問歌交わした鏡王女もおそらく額田王自身。

興福寺・・ 668=37歳 : *中大兄皇子が即位して蒲生野に遊猟した際、大海人皇子との贈答歌を作り、この頃、天智天皇を慕う歌、春秋争いの長歌を詠み、以後、自主的な専門歌人の道を歩み始めたと思われる。

中臣鎌足没・ 669=38歳 : この頃、額田王と鏡王女が“秋風の歌”を作ったが、後人の仮託の作とも考えられる。

天智天皇没・ 671=40歳 : 天智の死には後宮の女の1人として殯宮の挽歌を詠み、皇后の挽歌も代作したか。

壬申の乱・・ 672=41歳 : 御陵の喪事をおえて退散する時の長歌を歌った。壬申の乱で近江朝・賀の大友皇子を失い、以後沈滞、

天武天皇即位 673=42歳 : 大海人皇子が即位し、?野讃良皇女が立后。

・・・・・・ 675=44歳 : 十市皇女が伊勢参宮。吹?刀自の歌あり。

・・・・・・ 676=45歳 :

・・・・・・ 677=46歳 : 十市皇女が急死(自殺説も)。その死を悼んで高市皇子が熱烈な挽歌を捧げている。

伊勢遷宮・・ 685=54歳 :

天武天皇没・ 686=55歳 : 天武天皇が死去、皇后の挽歌を代作したか。

持統天皇即位 690=59歳 : ?野皇后が即位し持統天皇となる。

以後は静かな晩年を送り、

・・・・・・ 693=62歳 : *天皇が吉野に行幸、この時供奉した弓削皇子と天武への思慕を表す歌を贈答したと考えられる。同時に持統天皇からも長寿を祈る歌がよせられ、感謝の念をこめて返歌した。

没年不明ながら、まもなく没したと考えられる。